

集録してある。

立石初代藩主木下延由公は秀頼の一人国
松であるとの説について 伊東 繼司

大神比叢の土仏 志手 環

仁聞の入定した華頬洞 志手 環

常念仏並曼陀羅 土居 寛申

七双可古墳に就いて 入江 英規

宝福寺薬師如来像について 岩尾 純勝

木下俊長の事跡 森水 源一

文久三年異船に対する日出藩の配備及内
分風説録 森本 白華

国、県指定速見郡地方文化財一覽表

昭和三〇、七、杵築市速見郡地教委連絡協

議会刊、洋並製A五判本文七八頁図版五葉

、非売 (立川)

賀川 光夫 著

豊前中津市相原廃寺調査報告

山国川下流域に奈良朝以前の寺院址の存在
すると云うことだけは、辻・石田両博士によ
つて既に紹介されていたが、当相原廃寺に就て
は何等よるべき資料文献がなく、極めてあい
まいな推定をされていた。然るに昭和廿六年
中津市吉田良介氏によつて調査され、その概

様を知り之れを確認されたので、廿九年十月

中津市教育委員会では賀川氏に依頼し、地

元の山本、吉田、小田、佐藤、今泉の諸氏が協

力して細密調査を行つた結果を刊行したもの

が本書で、次の各項に分けて記述してある。

才一章、序説才二章歴史考古学上より見

た上代の豊前平野、才一節豊前平野、才二節奈

良朝以後の寺院址、才三章相原廃寺、才四章

遺物、才五章相原廃寺建立の時期に関する一

考察。

因に挿入図版十三がある。

昭和三〇、六、三〇、中津市教育委員会刊

仮綴A五判二一頁、非売 (立川)

動 向

一、教聖広瀬淡窓の壹百年祭

と門下生の慰霊祭 (立川)

水郷日田が生んだ教聖広瀬淡窓先生逝いて
既に百年、先生の残された偉大な業績は歳と
共に愈々輝き、その高潔なる人格は世人の仰
慕措く能はざる所となつて、今も残る咸宜園
の塾址を訪問する識者は、あとをたゞない。
先生は専ら教育の道に精進すること、実に

五十有余年の長きに及び、其の間、全国各地
から笈を負うてこの私塾に集る者、参千八百
有余名に及び、門下生からは、高野長英、大
村益次郎、長三州、平野五岳、赤松運城等々
幾多の俊英を出している。

昭和廿四年六月、天皇陛下九州行幸の御、
特に咸宜園址に立寄られ、先生始め広瀬八賢
の遺著を御覧になつて、御感殊の外深く、関
係者一同に「先哲の遺業を永く伝え、社会教
育につとめるよう」との御言葉を賜つたので
ある。

来る十一月一日は正に先生の百回忌を迎え
るので、地元日田市では淡窓会を設立して市
長を会長とし、この忌辰を卜して先生の百年
祭並に門下生の慰霊祭を盛大に度修してその
遺徳顕彰と、郷土文教の興隆に資するため、
左記の行事を計畫し、着々準備を進めてい
る。

因に目下調査中の門下生に就て調査もれの
者があればその通名、身分、歿年月日、享年
墓所、菩提寺、その行蹟、並に縁故者に就て
その氏名、関係、身分、職業、現住所等を日
田市淡窓会宛通知下さることを主催者では望
んでいる。

事業計画

◎祭典行事費

1 祭典諸費	一、七〇〇、〇〇〇
2 式典諸費	五〇、〇〇〇
3 遺墨展費	二〇〇、〇〇〇
4 記念出版費	八〇、〇〇〇
5 記念講演會費	二〇〇、〇〇〇
6 讚歌諸費	五〇、〇〇〇
7 各種大會費	一五〇、〇〇〇
8 協賛行事費	一〇〇、〇〇〇
9 施設費	五〇、〇〇〇
10 淡窓先生胸像製作費	五〇〇、〇〇〇
11 事務費	二七〇、〇〇〇
◎記念事業費	一四、九〇〇、〇〇〇
1 遠思楼移転諸費(完了)	四〇〇、〇〇〇
2 博物館建設諸費	一、五〇〇、〇〇〇
3 淡窓記念館建設諸費	一三、〇〇〇、〇〇〇
鉄筋コンクリート二階建二〇〇坪	
合計	一六、六〇〇、〇〇〇

二、I P の直入町調査と放送

本誌常任委員久多羅木、半田、賀川、立川の四氏は大分放送局郷土資料調査員として、加藤、松岡の二全調査員並に別府市の歌人田

吹繁子女史と共に、七月十三日から三日間、直入町の考古、歴史、民俗其他の調査研究を行い、多大の收獲を得、其の調査結果を翌十六日大分放送局から三十分間放送した。

その内容の主なるものは、大塚、甲斐両旧大庄屋に残る古文書と庶民資料、古墳よりの出土品、県下最初のキリシタン村としての歴史と遺物、社家部落の宮座其他の民俗、万葉に歌われた朽網山や俗謡「よいやな」等の文学、其他観光文化財等であつた。(立川)

三、杵築、速見の文化財

調査員の活躍

昨年、県下で最もすぐれた文化財目録を編輯刊行した杵築市、速見郡文化財調査委員会で、去る六月廿二日日出町致道館で、文化財調査委員会研究資料編集について打合せた結果、「速見地方文化財調査報告書」を出版した。

四、復活した臼杵、杵築

両市の史談会

戦争の影響で、久しく中止状態であつた、臼杵史談会は、去る一月市長三浦義臣氏を會長として再発足し、研究座談会、実地踏査等

盛に活躍しているが、今回既刊四十二巻で休刊となつていた会誌「臼杵史談」を年四回の季刊で復刊することとなつて、その初号を去る五月末日発行した。全じく久しく休止していた杵築史談会も市民の要望により八月廿三日同市安住寺で再発足し、同好者多数の参加があり今後の活躍が期待されている。

五、其他の地方

大野郡三重町史談会は深田地方の現地調査研究や、研究座談会を開催し、同郡大野町郷土研究会でも引き続き調査研究と、其の成果の印刷発表をするなど、県下各地とも郷土史研究が日を追い盛になつている。(立川)

会報

昭和卅年度本大会 (渡辺澄夫)

本会は去る五月十九日本年度總會並びに大会を、大分市昭和通商工会館二階ホールにおいて開催した。集る者百名以上で、空前の盛會であつた。大会の次才及び研究発表、特別講演の題目は左の通り。

一、研究発表(自午前十時、至十二時)

(一) 室町戦国期大友氏の花押について